

中川正春の永田町かわら版

2005/10/6 第241号

【編集元】民主党三重第2区総支部 衆議院議員中川正春事務所

E-mail: g03063@shugiin.go.jp

三重／〒513-0013 鈴鹿市国分町453-7 TEL:0593-73-3933/FAX:0593-74-3088

東京／〒100-8981 千代田区永田町2-2-1衆議院第一議員会館428号室 TEL:03-3508-7128/FAX:03-3508-3428

○「数の差は、道理をもって克服」

の理想を持って臨む議運

最近の一日は、毎日、朝9時15分からの民主党国会対策役員会から始まります。

与党は、11日には郵政民営化法案の採決をしたいと考えていること。民主党の対案が国民(マスコミ)に理解してもらえるところまで行くには、もう少しの時間が必要だということ。さらに、この日に緊急に本会議採決をするために、与党では、テロ特措法の延長(アフガンへの自衛隊による海上給油)法案を議題にして、本会議を開催する口実としたいこと等々を報告。アフガンの問題以上に大切なのは、イラクからの自衛隊撤退を迫ることだから、私は、民主党から「自衛隊撤退法案」を提出すべきだと提案しています。

さらに、昨年から持ち越しの年金や社会保障についての参議院との与野党合同協議会の開催をめぐる、「ダラダラと先送りのための時間稼ぎはやめて、いつまでに結論を出すかはっきりしてから協議会を開こう。」と、問題を投げかけました。

特に議員年金の廃止については、与党からは、今の制度を温存して、とりあえず国庫補助率を現在の70%から国民年金並みの50%に落とし、一元化は、その後の協議にしようかという提案が出ています。これに対して、私は、「その後の協議」として、後で実現されたためしはない。これも結論の先送り、逃げているだけ。与党に実現する意思があれば今でもできるはず。「一元化」をやって、議員も自営業もサラリーマンも、日本国民が共通の年金制度で持続可能な安心を実現することが大切。「公約どおり今すぐ議員年金は廃止するべきだ。」と主張しています。

こうした議論を国対でまとめ、議院運営委員会で与党の理事を相手に交渉を重ねていきます。今回の選挙で、与党理事7人に対して、私たちは、2人。「中川さん、この人数の差は、つらいね。」と回りに慰められながら頑張っています。

○子供の見方が変わる

発達障害者への取り組み

発達障害の勉強会を鈴鹿で持ちました。県議会や市議会議員のみなさんも参加して、中京大学の辻井先生と小児科医の石川先生に問題の核心を説明願いました。

ひとつのことに集中できず、絶えず体を動かしずめの子。他は普通なのに、漢字がからつき覚えられない子。全体の状況が理解できずに対人関係に絶えず問題を起こす子などなど。障害と認定されないけれど、普通とはちよつとずれていたり、極端に突出した性格だったり。時には、こんな子供たちから天才が出るという、「ちょっと変わった子」の話なのです。この子供たちの頭の回路を理解して、その子達に応じた入りかたをすることで、最近社会で起きている多くの奇怪な問題の解決の糸口が見つかる。それを促進する法律が「発達障害者支援法」として昨年、国会で法制化されました。

今、子育てにまつわる悲劇が多発する中、社会全体で「発達障害」を理解することで、問題が未然に防げるのです。児童虐待の多くが、また、子供たちのいじめの原因の60%以上、大人の世界でも職に就けない引きこもりのほとんどが、この発達障害に起因すると言います。

三重県では、亀山市の取り組みが先進的で専門家からも注目されていることも分かりました。井田川小学校がモデル校に指定され、専門家が関与しながら積極的な取り組みを続けています。

○脱北者、命の救済に向けて

うれしい知らせが二つ。北朝鮮からの脱北を金で請け負うブローカーにだまされて中国国内で行方不明になっていた石川さんが、中国当局に保護されたという知らせ。北朝鮮から韓国に逃げてきた赤塚さんが日本へ帰国の目途がついたという知らせ。ともに外務省に対して保護することを強く要請していた案件です。北からの脱出が急激に増えています。みな、命を懸けた脱出です。